

地域とともに「生きる」
介護福祉のイノベーション。

岡 飯塚裕久さんは、小規模多機能型居宅介護拠点「ユアハウス弥生」の所長であり、介護職のみならず対人援助職の人々が現場でイキイキと働くためにサポートするNPO法人「もんじゅ」代表でもあります。実は僕も「小規模多機能型居宅介護」についてはあまり詳しくないので、飯塚さんの活動を掘り下げつつ、教えていただこうと思ってます。

飯塚 まずは、小規模多機能型居宅介護が誕生した背景から話そうか。「ユアハウス弥生」を運営する株式会社ケアワーク弥生は今年から60年前（1953年）に、僕の祖母が始めた会社。当時の病院や高齢者が最期を迎える施設は、煎餅布団が敷いてあって、むき出しのトイレがあって、小窓からご飯が入られるよう

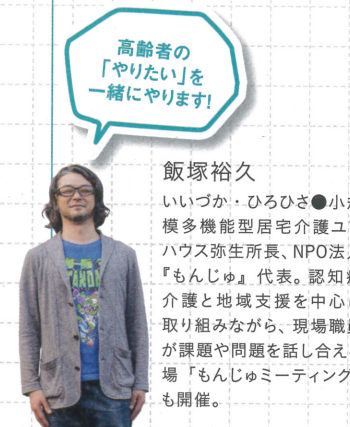
小規模多機能型居宅介護とは？

高齢者が住み慣れた地域で暮らすために、介護保険制度改正により創設された地域密着型サービス。それまで施設と在宅の二択しかなかったが、事業所への通い・宿泊・ヘルパーによる訪問を組み合わせたサービスを24時間受けられる。

える、必要なときに必要なサービスを提供できる、これがいつでもできるのが小規模多機能型居宅介護の特徴だね。岡 もっと地域で活動するNPOと連携した活動もできるようにしますよね。飯塚 地域全体で高齢者を支えるためには、地域の方やNPOの力が絶対に必要だよな。人間の生活時間は1か月720時間。そのうち働けるのは160時間ぐ

な状態だった。誰もそんな環境で最期を迎えたくないじゃない。そこで看護師だった祖母は、それまで医師と看護師で診ていたところに、身の回りのお世話を手伝いする家政婦を加えて「最期を看取る」ことを始めたんだよね。当時から変

ユアハウス弥生



飯塚裕久
いづか・ひろひさ ● 小規模多機能型居宅介護ユアハウス弥生所長、NPO法人「もんじゅ」代表。認知症介護と地域支援を中心に取り組みながら、現場職員が課題や問題を話し合える場「もんじゅミーティング」も開催。



学生時代を過ごした思い出の土地に行くことも。

家族の帰宅が遅いとき、ここで夕食も食べられる。

地域NPOと連携すると、もっと「できる」が広がるかも？

地域の医師と連携して症状を伝えることも大切。

毎日食事やバイタル、コメントを連絡帳に記入。

高齢者もヘルパーも「できない」から解放!!

「イブニング」(購読社)で連載中のマンガ「ヘルプマン!!」に飯塚さんが登場!!

「ヘルプマン!!」くさか里樹(購読社)

わらないテーマは、「いかに住み慣れた家で最期を迎えるか」ということ。創業当時に家政婦たちがやっていたことを、もう少し介護にブラッシュアップして提供してきたけど、2000年に介護保険法が施行されると「やれること」と「やれ

ないこと」が出てきた。

岡 例えば、利用者が「今までの生活の中で利用していたステキな喫茶店でお茶したいな」と思っていたとしても、それは介護保険法の適用外ってことですよね。飯塚 そう。それまで祖母たちがやってきていたことが、制度の中ではできない状況。だけど、そもそもやりたかったことを見つめ直すと、「自分が生きてきた土地で死ぬこと」なんだよ。「死ぬ」ということは、そこまで「生きる」ということ。なのにコーヒーすら飲みに行けない、墓参りにも行けない、それっておかしいじゃない。そこで、2006年に制限がほぼない小規模多機能型居宅介護が許されたんだよ。

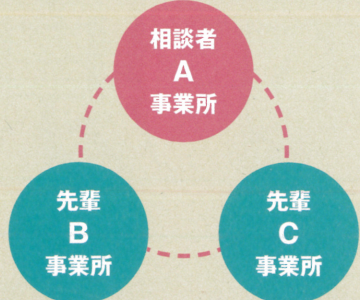
岡 制限がないってことは、一緒にコーヒー飲みに行くこともできるようになる？
飯塚 与えられたミッションは、介護保険法の中で可能な限り自立した生活ができるように支援すること。さらに、そこには家庭的な雰囲気と住み慣れた土地がある。つまり、僕らも、利用者のおばあさんたちも、「できない」から解放されて「一緒にできる」ようになったわけ。

岡 訪問介護やデイサービスだと、決められた時間の分だけ原資を回収できますよね。小規模多機能型の場合はどうやって回収するんですか？
飯塚 利用者の方は何回利用しても定額料金なんだよ。月額料金になるから、どの時間帯でも原資が回収できている状態。会いたいときに会

岡 日本の福祉業界に飯塚さんがいることが救いですよ。今日のお話も、35万円ぐらい授業料払いたいくらい(笑)。飯塚 岡くんをはじめ、次の世代の人たちがいられるように道をつくっておいてあげたいですね。そして日本の介護をつかっていくところに参画してほしい。僕も仲間がほしい(笑)。みんなで一緒に、いかに高齢者を解放できるかに取り組んでいきたいね。

スタッフも幸せに働けるしくみを。

離職率の高さが課題でもある介護業界。「やりたいけどできない」を抱えて離職していった仲間たちをたくさん見てきた」と言う飯塚さんは、現場職員が対話の中で問題を解決できるようサポートするNPO法人「もんじゅ」を設立。相談を「する人(現場職員)」と「受ける人(先輩2名)」のセッションで行われる「もんじゅミーティング」は、問題を言語化し、相談者の解決能力をファシリテートする。



A事業所で働く相談者は、B事業所・C事業所の先輩に相談することで、地域の事業所同士が問題をシェアできる。「各地域で行ってあげば、地域包括ケアが地域課題を解決することにもなる」と飯塚さん。



つくったお雑煮を根津神社の参拝客に振る舞ったりも。

僕らは、いつでも側にいられる「伴走者」。

日本財団と

社会をよくする
ビジネスを
共につくる

企業、募集。

みんなが、みんなを支える社会をつくっていくために。

いま、企業のカ・ビジネスの力が、大きく注目されています。「御社のビジョン×日本財団のノウハウ」で、新たなソーシャルビジネスを。

ぜひ一度、ご相談ください。

詳しくは

日本財団CSR 検索



日本 200名 1953年
訪問介護・居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護・有料職業紹介所

株式会社ケアワーク弥生
www.carework.co.jp
地域全体で高齢者の伴走者になる。



ここがソーシャルグッド!
いつ・いかなるときでも必要なサービスを提供し、高齢者が暮らす環境づくりを行う。